

最中国＝西安

「最も中国らしい中国・西安」をアピール
年間250以上のイベント通じて魅力を紹介

西安市旅游發展委員会と中国駐東京観光代表処は2月1日、東京・西池袋のホテルメトロポリタンで観光説明会「西安年、最中国」を開催しました。

西安市の徐明非副市長は、西安の歴史が5000年前まで遡ることを説明し、「有史以来13もの王朝が西安に都を置き、その期間だけでも11000年を超える」と指摘。「隋と唐の時代には、日本と遣隋使や遣唐使を通じた交



秦の始皇帝陵の東側にある兵馬俑坑。1970年代における「世紀の大発見」は見る者を圧倒します

流が行われ、鑑真和尚や阿倍仲麻呂など著名な人物も、中日間の友好の礎を築いてきた」と強調。また「美しく豊かな広中平原に位置する西安は、北京と上海に次ぐ3番目の国際都市を目指しており、中国の伝統文明を継承・発展させながら、新たな現代の文化と都市の生活スタイルも体現している」と多様な魅力をアピールしています。

徐副市長によると、「西安年」と位



西安を象徴する慈恩寺・大雁塔の広大な北広場は往時の栄華を髣髴させます



観光説明会で披露された唐舞の「長恨歌」

置付けられた2019年には、年間を通じて過去最高となる250以上の様々なイベントも開催され、「最も特別で、最も美しく、最も民俗的かつ文化的で、最も技術的かつ現代的な」都市として、「唐の時代にも匹敵するような勢いを感じさせる西安」をプロモーションしていく方針です。

観光説明会では、西安出身の舞踊家たちが唐舞の「長恨歌」を演じて、1000年以上も前の玄宗皇帝と楊貴妃のエピソードを披露し、華清宮など西安を代表する観光資源の魅力も再認識されました。



中国駐東京観光代表処の王偉首席代表



西安市内の中心に位置する高さ36メートルの鐘樓には、今も人々が集まり市が立ちます



陝西省の幅広麺など西安は「食の都」でもあります

中国駐東京観光代表処